

あなたへの「聖書メッセージ」

【 義人（ジュスト）は「なつめやし」の木のように 】

※ 高山右近が マニラで召された時（1615.2.3）、高山右近の死に接して、人々の悲しみは大きく、各人が自分の最愛の者に死なれたように感じ、右近の霊名「ジュスト（義人）」を重ねて、「正しい者（義人・ジュスト）は、なつめやしの木のように栄える。」（詩篇・92 篇 12 節）と言って、別れを惜しみました。

※ この旧約聖書の個所のみことばについて、阿武山福音自由教会の礼拝（2015.9.6）のメッセージで、高橋眞治牧師が語ってくださいました。

了解を得て、関係の部分を紹介させていただきます。



「正しい者は、なつめやしの木のように栄え、レバノンの杉のように育ちます。」

旧約聖書「詩篇」92 篇 12 節の みことばです。

ここに、なつめやし や レバノンの杉 にたとえて記されている「正しい者」の「正しい」という言葉の意味・内容についてお話いたします。

ここで「正しい」と訳された言葉に注目してみましょう。

これは、旧約聖書の原語である ヘブル語の「タデーク」という形容詞が、日本語の「正しい」と訳されたものですが、旧約聖書に記されている「タデーク・正しい」という言葉の意味は、日本語の「正しい」とは同じではありませんので、その正確な意味を、しっかりと とらえていきましょう。

聖書で「タデーク・正しい」と言われている意味は、「**律法の内側に立つ**」—— ということを示しています。

律法というと、モーセが シナイ山で神さまから与えられた 教え・法律・戒め ですが、その律法を実行するとか・守るとかという、行ないによる行為について、「正しい」と言っているのではありません。**行ないの前の段階のこと**を言っているのです。

行なう前に、「自分は今、どこに立っているのか、それを確認してください。」—— ということとです。

まず、立ち位置をはっきりさせて、それから 動き始める・行動に移る わけですが、行動に移る前の段階・どこに立っているのか、現在位置の確認です。

やがて 神さまから預言者たち、イザヤ・エレミヤ・エゼキエル・ダニエルなど、たくさんの預言者たちが、神さまから召されて 働きをします。そして、神さまが「語れ」と言われた言葉を語ります。それを記録したのが、「イザヤ書」などの「預言書」です。

「律法」と共に「預言書」も合わせて、神の言葉として、**“ その内側に立つ ”**ように勧められているのです。

その内側に立っている時、私たちは「正しい」と言えるのです。

そして、新約の時代になって、イエス・キリストの十字架・復活・昇天、聖霊降臨などがあって、「新約聖書」が記され、初代教会では、旧約聖書・新約聖書を合わせた、**神のみことばにしっかりと立つように** —— 勧められました。

そして、現代の私たちも、そのように勧められてきました。

これが、聖書が言う「正しい」という言葉の定義です。

反対に、「悪い」とか「悪^あしき」とか言われるのは、“神のみことば・聖書のみことばの外側に出てしまうこと”——をいうのです。

いろんな球技がありますが、野球・バレーボール・テニスなど、いずれの場合でも、線上にボールが落ちた時は「セーフ」です。「アウト」ではありません。

でも、線の外側に出てしまうと、どんな球技でも「アウト」になります。

野球のピッチャーの場合を考えてみてください。「ストライクゾーン」の内側なら、どこに投げてもいいのです。「ストライク」です。低めであろうと、高めであろうと、左側でも右側でもいいのです。「ストライクゾーン」の内側だったら、「ストライク」と判定されます。

でも、「ストライクゾーン」から ちょっとでも外側にはずれてしまうと、「ボール」になってしまいます。

神さまは、私たちに、「私（神）の言葉の内側に立ちなさい。外側に出て行っちゃあいけないよ。」——とおっしゃっています。

これが、「正しい」ということについての 教えです。



「正しい者は、なつめやしの木のように栄える」と たとえられた「なつめやしの木」は、date^{デイト}
palm^{バーン}（果実は デーツ）と呼ばれて、聖書に登場してくる、最も身近な植物の一つです。

けっこう、実は大きいのですが、ドライフルーツ にして食べるので、縮まってしまうんですよ。親指か、ちょっと大きい位です。

「正しい者は、なつめやしの木のように栄える」という言葉の中の「**栄える**」というのは、
“ **たくさんの実をみのらせる** ” という内容です。

1 本の木で、軽トラックに一杯の実がなります。

しかも、14 節に「彼らは年老いてもなお、実をみのらせ、みずみずしく、おい茂っていきましょう。」とあるように、なつめやしは、枯れる前の年まで実をみのらせるのです。すごいなあ、と思います。

それも、だんだん 実が少なくなっていくじゃなくて、最後の時まで・枯れるまで、実を豊かにみのらせるのです。

ユダヤ・エジプト・レバノン・シリア・ヨルダンなどの 中近東の国々の、どこにでも見られる植物が「なつめやし」です。

専門家が調べましたら、なつめやし には、①カロリーが高い ②植物繊維が豊富 ③カリウムが多い（血圧が高い人には いい） ④腹もちがいい・満腹感がある —— のです。

旅を続けて行く人たちにとっては、いいことづくめ です。

しかも、聖地旅行に行った時には、果実のデーツは、お土産にピッタリなんです。空港でもスーパーでも、どこでも売っています。そして、安い！ 誰でも 手に入ります。

木は、空に向かって、まっすぐに伸びていきます。

エジプトを出たイスラエルの人々が、葦の海（紅海）を渡って、エリムという場所にやってきました。旧約聖書の「出エジプト記」15 章 27 節に、

「こうして彼らは エリムに着いた。そこには、十二の水の泉と七十本の なつめやしの木があった。そこで、彼らは その水のほとりに宿営した。」 —— とあります。

荒野を旅している途中に、なつめやしの木を発見したら、そこには水がある！ というサイン

ですから、必ずそこに立ち寄り、らくだを留めて 水を補給します。

旅をしている人々に、「ここに泉があるから、しばらく休憩して、水を補給しなさい。」という
—— 神さまが、旅人たちに示しておられるサインが、「なつめやし」なんです。

実に、“ 12 の水の泉 ” と “ 70 本のなつめやし ” は、表裏一体なんです。

なつめやしの林がある所には、泉があります。—— “ もし 水を求めるなら、なつめやしの木
を捜しなさい！ ” —— というのが、神さまからの サインです。

このことが、聖書が私たちに語っている内容です。

あなたも、「なつめやしの木」のように、多くの実を結ぶと共に、人生の旅人たちに、永遠の
いのちの水の泉のある所を示す人として、神の恵みを証しする存在になっていってください。

人々は、エリムで、いのちの水を 神さまから与えられて、カナンへの旅を続けることが出来
たのです。

実は私（高橋牧師）も、エリムに行きました。

エジプトを出て、延々と ツアーバスで走っていくんですネ。すると突然、遠くの方に「なつ
めやし」の林があらわれました。

そこで車を停めて、小休止するんですけど、まさに 荒野のまん中なんです。

なつめやしの林の間に、ところどころ、カラフルな屋根の家が建っているんです。

バスがとまっていると、そのカラフルな家から、子ども達がたくさん走って 出てくるんです。
そして、ツアーバスの方に走り寄ってきて、何か求めているのかなあ・何かくれるのかなあ、と
いうことなのでしょうね。いつも、そういう経験をしているようです。

いやー、たくさん 子ども達がいるなあ。—— という感じです。

私は車から降りて、なつめやしの林にある泉を見に行っただんですけども、途中に 涸れた泉
の跡があったので近寄りました。

けっこう 深いんですよ。落っこっちゃったら大変です。それだけの水があった、ということ
ですネ。

聖書に記されているように、「エリムには、12 の泉があった。」—— というほどの場所です。

何千年前のことですが、でも、今も、そこに人家があって・人々が住んでいて・子ども達もそこで生活しているんだ、というわけです。

エリムは当時、旅をする人々にとって、 “ 荒野におけるオアシス ” —— だったのです。

私たちも、「なつめやしの木」のように生きることが出来ます。

このことが、詩篇・92 篇が 私たちに教えている内容です。

